

平成26年度小笠原村立小笠原小学校

1月号 (H27.1.8)

TEL 04998-2-2012

校長 西澤 盛和

学校だより

学校評価保護者アンケート回収率100%

校長 西澤 盛和

あけましておめでとうございます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。幸多き素晴らしい年となりますよう心よりお祈りしております。

昨年度末に実施した学校評価保護者アンケートでは、皆様のご協力によりまして回収率100%を達成しました。これは家庭と学校の連携を深める上で貴重な第一歩であるとともに、大きな成果でもあります。校長としての私の方針は度々申し上げているように「学校が求められていること」と「教員が頑張っていること」のズレをなくすことです。そのためには、家庭と学校の連携は欠かせない最重要課題であり、今回いただいた学校への評価をどのように改善に生かしていくかこそが、私に課せられた大きな課題です。学校評価の集計結果、そして改善方針につきましては内ページをご覧ください。

「なぜ学校評価を行うのか」という質問をお受けすることがよくありますが、それにお答えすると、平成18年に教育基本法、平成19年に教育三法が改正され、学校評価が法的に義務付けられたというのが大きな理由です。学校評価の関連法案はいくつかありますが、学校教育法施行規則の67条に「小学校は、保護者その他の当該小学校の関係者による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。」とあり、各校は、学校評価の保護者アンケートを実施し、その結果を公表するようになりました。同68条では、学校の設置者である教育委員会への報告義務についても規定されており、学校評価の結果についてはすべて教育委員会に提出することになっています。

このような法規の改正により、内地の多くの小学校では、その区市の教育委員会が作成した評価項目で保護者アンケートが行われ、その教育委員会はその数値により、各学校を競わせるようになってきているのが現状です。本来は、学校教育法42条にあるように、「小学校の教育活動、その他学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき、改善を図るため必要措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努める」ために行われるのが「学校評価」です。しかし、数値が他校より低い結果になり、学校批判や教員の批判ばかりが目立つ結果になると、教職員の努力が報われないばかりでなく、それを公表することにより、保護者や子供にも「よくない学校」という不安や動揺が現れ、学校は悪循環に落ち込み、荒れていきます。教育水準の向上のために行う「学校評価」が、結果的には教育水準の低下を招くものになる場合が少なくないのです。「なぜ学校評価を行うのか」という疑問を持つ方は、きっとこのように「教育水準の低下を招く」「向上にはつながらない」「何を指摘しても何も変わらない」等とお考えの方だと思います。

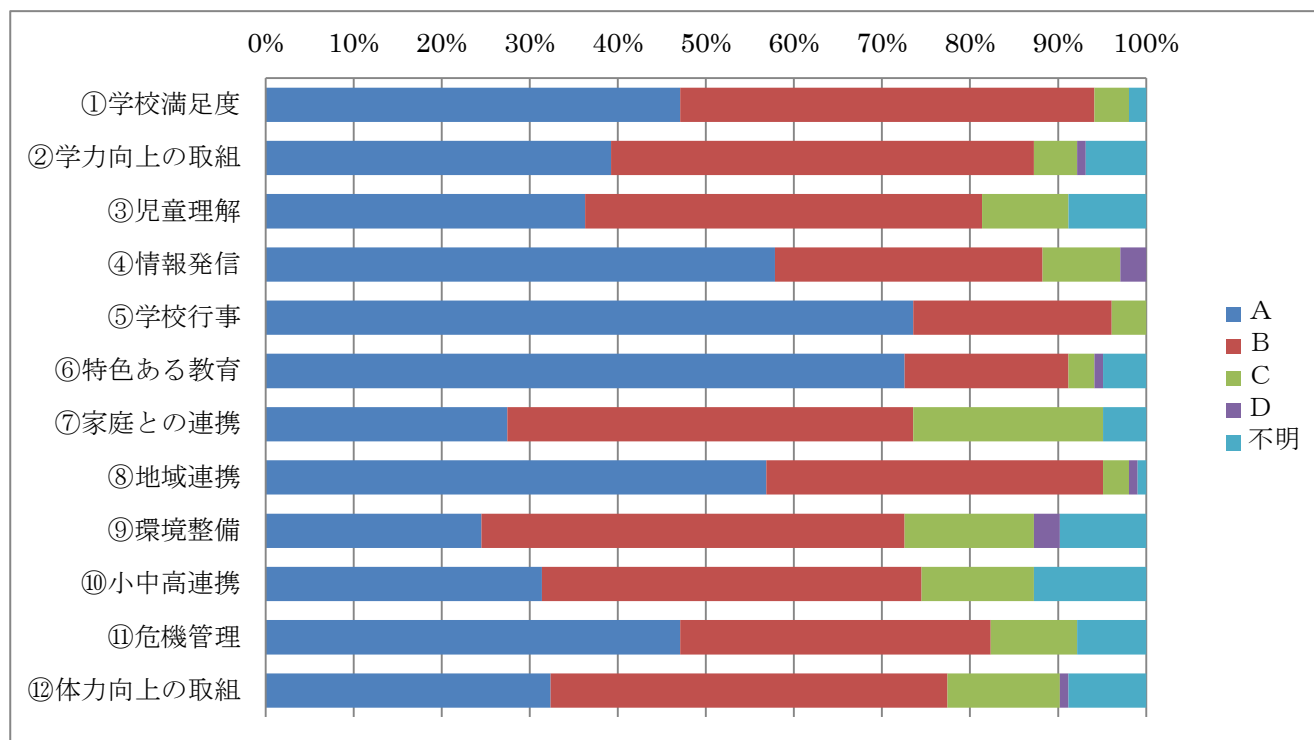
そうならないように、私は学校が好循環になるよう全力を尽くします。それには、保護者の皆様に常日頃から評価されるよう地道な教育活動を行うことしかありません。今回の評価結果を踏まえ、改善すべき箇所は必要な措置を講じて、本校の教育水準を向上できるように努力して参ります。

本年も本校の教育活動へのご理解ご協力、そして教職員へのお力添えをどうぞよろしく申し上げます。

1月の行事予定			16	金	避難訓練、ロードレース大会前検診 ㊦デザート
1	木	元日、海開き、村成人式	17	土	
2	金		18	日	ロードレース大会(村行事)
3	土		19	月	全校朝会 ㊦ヨーグルト
4	日	武道始	20	火	6年アホウドリ洋上学習
5	月		21	水	音楽集会
6	火		22	木	6年アホウドリ洋上学習予備
7	水	冬季休業(終)	23	金	6年研究授業
8	木	始業式、ロードレース大会問診票配布	24	土	
9	金	1月誕生集会、書き初め大会③④、職員会議	25	日	ロードレース大会予備
10	土		26	月	全校朝会
11	日	新年子ども餅つき大会	27	火	ユニセフ集会
12	月	成人の日	28	水	ゲーム集会、ユニセフ募金、芝生の日、ワクワクスports
13	火	全校朝会、弁当始、ぎょう虫検査配布 ㊦ヨーグルト	29	木	ユニセフ募金、6年アホウドリ予備 ㊦ヨーグルト飲料
14	水	運動集会、芝生の日、ワクワクスports、安全点検	30	金	ユニセフ募金、3年クラブ見学
15	木	ぎょう虫検査回収	31	土	学校公開、道徳授業地区公開講座、

※2月は芝生養生のため校庭の使用はできません。ご了承ください。

平成26年度 小笠原小学校 学校評価集計結果報告



①学校満足度(肯定的評価の割合95%)・・・肯定的評価が95%という結果は嬉しく思いますが、A評価が5割に満たないことや満足していない方がいることは重大であり、特別なことでなく日々の教育活動こそ充実していかなければならないと考えます。

②学力向上の取組(89%)・・・学力向上の客観的な指標として来年5月に実施される「村学力調査」の結果に注目していただきたいと思ひます。各学年今年度の結果を上回ること、各教科の平均偏差値が50を上回ることを目指し、指導しています。

③児童理解(82%)・・・記述欄で、教員との距離が近いということを本校のよさと挙げている方が多いということから考えれば、より一層この項目の評価を上げていかなければならないと感じます。一人一人の児童に寄り添った指導を心掛けていきます。

④情報発信(88%)・・・今年度は学校ホームページを随時更新し、フェイスブックやツイッターにアップする等改善を図りましたが、肝心の緊急連絡の際には効力を発揮できず、問い合わせが多かったのが反省です。今後も学校の教育活動の内容、校長の考え等、学校だよりや学級通信等も活用し、積極的に情報発信していきます。

⑤学校行事(96%)・・・運動会や学芸会に対して好意的な評価をたくさんいただきましたが、それが反映された結果となりました。記述欄からも皆様の行事に対する期待が大きいのが分かりました。学校は今後も、学校行事だけでなく村行事においても、子供の成長の大切な機会ととらえ、積極的に参加し、全力を尽くさせる教育活動を今後も推進していかなければならないと感じています。

⑥特色ある教育(92%)・・・記述欄でも小笠原の自然や文化を学ぶ教育活動を重要視する意見は多く、評価でも高得点を挙げています。地域の皆様のご協力をいただき成り立っている本校の特色ある教育活動です。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

⑦家庭との連携(76%)・・・家庭と連携して身に付けさせたい児童の学習習慣の定着はまだまだという結果です。日々の連絡帳を含めた細やかな家庭連絡により、宿題忘れや学習用具の忘れ物を無くし、学習に対する万全な備えを含めた学習習慣を確立していけるようにしたいと考えています。また忘れ物に対する学校の態勢も考え直していきます。

⑧地域連携(95%)・・・この項目がこんなにも高評価なのは嬉しい限りです。地域社会が失われている東京で、このような評価がいただけるのは本校だけではないかと思ひます。まさに東京都一だと思ひます。今後は日本一を目指し、地域連携をより一層進めたいと思ひます。地域の皆様の温かなご理解ご協力に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

⑨環境整備(72%)・・・一番評価の低い項目です。古い校舎、古い備品という限られた条件の中でも、安全で清潔で不足ない学習環境となるように村教委と連携して整備していきます。人的環境としても支援員確保や言語環境整備に力を入れています。

⑩小中高連携(76%)・・・記述欄で、学校・学年を越えた異年齢の交流を本校のよさであると挙げている方が多いように、父島の特色であり、伝統であり、大事にしていかなければならないところです。連合行事以外の学校間連携にも力を入れています。

⑪危機管理(83%)・・・地震、津波、台風等、自然災害はいつでも起こり得ます。避難訓練をより実際のなものとしたり、緊急連絡の方法を確認・見直しをしたり、教職員の入れ替えがあっても常に万全な態勢を整え、被害を最小限に食い止めます。

⑫体力向上の取組(78%)・・・8割を切る低評価のとおり、体力調査の結果もあまりパツとしないものでした。今後は、校長室前の掲示板に体力調査8種目の校内学年別記録を設置するなど、体力向上に向けた取組を分かりやすいものにしていきます。

小笠原小学校のよさや子供の輝く瞬間についての記述について

- 村行事・学校行事を含め、行事での子供の活躍に触れているもの……………18
- 遠泳、南洋踊り、カメの学習等、小笠原の自然・文化の学習に触れているもの……17
- 中学生、高校生の姿を含め、学年を越えた異年齢のつながりに触れているもの……13
- 島の方々が見守り中での発表・活躍の機会が多いことに触れているもの……………10
- 教員との距離が近く、身近に感じられるということに触れているもの……………9
- 島の方々全員が子供を見守り育ててくれているということに触れているもの…………7
- 少人数なので、教員の目が行き届いているということに触れているもの……………6

●記述欄についてもご協力ありがとうございました。主体性を重視すること、活躍の場があること、認められること等、子供の輝く瞬間は、教員の指導姿勢に直接影響するものも多かったです。

●特に多かったのは、「行事」による子供たちの活躍に関する記述です。これは4番目、6番目の内容とも関連するのですが、島の方々子供たちをみんなで見守り育て、島の方々に子供自身が自分を見てもらえる機会として「行事」をとらえると最も多くの方が触れている項目ということになります。「子供たちは意外に「恥ずかしくて嫌なこと」ではなくて、「嬉しいこと」であるようで、アピール力がすごい。イベントが多いと大変だけど、子供はそれなりに伸びている。」「人前に出ることに慣れていて怖気づかない。発表することに張り切って取り組む。」「自信をもって自分を表現する時の子供たちは輝いている。」等という意見にもあるように、これからの子供たちに身に付けてほしい、自己表現力の育成に大いにつながるもので、学校としても、学校行事のみならず、様々な村行事も大切な教育活動の場と捉え、積極的に参加・協力していかなければならないと考えます。

●次に多かったのは、小笠原ならではの教育活動です。遠泳、小港キャンプ、南洋踊り等の小笠原の自然と文化を学ぶ教育活動については、「小笠原でしか勉強できない授業、郷土愛が深まると思う。」「この島ならではの特色ある授業は、地域とのつながりや環境への配慮が無理なく学べているように感じる。」等というご意見にもあるように、子供たちの郷土小笠原に対する誇りや愛着を育むように、今後も本校の大事な教育活動として継続して各学年で計画的に取り組んでいきます。(本年度表彰を受けたのもこの分野でのことなのですが、ユネスコスクールやESD教育についての説明が足りなく、分かりにくいというお声もいただきました。改めてご説明させていただく機会を設けたいと考えています。よろしくをお願いします。)

●学年を越えての子供たちの交流、仲のよさをあげる方も多かったです。私も子供たちの学年を越えての仲のよさには驚かされます。中学生や高校生との交流も見えて温かい気持ちになります。まさに小笠原のよさであり、アンケート結果⑩小中高連携の数値がもっと向上するように、中・高と連携をより取り合っていかなければならないと思います。また小学校内でも異学年交流の機会を大切にしていき、このよき伝統を守っていきたいと思います。

●教員に関する記述として嬉しいものとして、「先生と私たち親との距離が近くて、いろいろ相談しやすい」「先生と校外で会った時、子供たちが嬉しそうに声をかけている姿はとても温かい感じがしてすごく良い。」「先生と保護者が一緒に子供の成長を喜ぶことができる。先生も保護者も自分の学年だけでなく、自分の子供だけでなく、すべての子供の成長に感動し、それを伝えることができる。」「保護者同士も、保護者—先生の間も近いことが小笠原小学校のよさだと感じる。」等、ありました。しかし、アンケート結果⑦家庭との連携の数値が8割を切っていて、他の項目と比べ低くなっています。また「教員によって評価が変わる」というような意見もいただきました。すべての教員が、おが小の教員として求められていること、期待されていることに、誠実に応えることができるようにするというのが、校長である私の第一の仕事ですから、それが達成できるように今後とも努力していきます。

今回「保護者アンケート」回収率100%のご協力、心よりお礼申し上げます。昨年度と比較すると全体的により評価となっていて、今年度の教育活動には概ねよい評価をいただけたものと感じております。しかし、教育は児童一人一人に対する実践的・継続的な営みであり、概ねの印象は本来的には意味のないものです。一人でも満足のいかない児童がいたり、一人でも学校に対し不満のある保護者がいたら、その一人をどうにかしていくことこそが教育の使命であり、校長としての私の仕事であります。今回C・D評価であった方々に対し、具体的な改善の話ができるように、日々の教育活動を通して努力していきたいと思っております。今後とも何かありましたら、直接ご相談ください。校長室のドアはいつでも開けてお待ちしております。今後ともよろしくお願いいたします。

1月の生活目標

担当 渡邊 義男

【自分の目標に向かってがんばろう】

自分の立てた目標にむかってがんばることが大切です。年も明け、新たな気持ちで自分の目標に向かってがんばることができるようになることを目指していきます。

自分の目標を達成するためには、どのようなことをすればよいのか、具体的な計画を立てることも必要になってきます。「目標に向かって努力すること」の大切さを伝え、18日のロードレース大会の取り組みにも関連させながら、日々の指導を進めていきたいと思えます。

1月の安全目標

担当 浅海 佳代

【横断歩道を利用して道路を横断しよう】

寄り道をしたり遊びながら帰ったりすると、思いがけず長い時間がかかってしまうことや、思わぬ事故に巻き込まれることがあります。正規の通学路で下校するよう指導しています。

【けがや事故に気をつけて運動しよう】

ロードレースに向けて、走っている方が増えてきました。学校でも全校で休み時間に走っています。校外で練習する時もけがや事故のないように気をつけましょう。

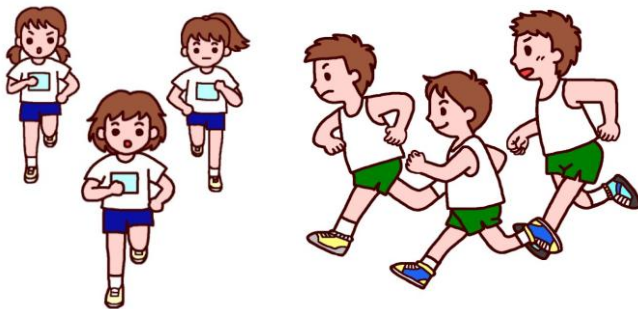
第42回小笠原ロードレース大会

ロードレース実行委員 清水 智

第42回小笠原ロードレース大会が今年も、1月18日(日)開催されます。風邪等が流行する季節ですが、全児童が元気に参加できることを願います。

学校では、学芸会後からランニングカードを配布し、朝の時間や20分休み、体育の時間などでランニングを行っています。どの子も徐々に自分のペースを考えながら走り切れるようになってきました。

本番まで残りわずかとなりましたが、ランニングカードをぜひご家庭でもご覧になってください。1枚で約20km走ったことになるように作ってあります。放課後や自宅周辺で走っても記入することもできますので、ご家族や友達と誘い合って走ってみてください。また、本番で気持ち良く走れるように、①体調②服装③持ち物などの準備もよろしく願います。準備をしっかりとすることで、本番への自信にしてください。ご理解ご協力宜しくお願いします。※予備日は1月25日(日)となります。



ヤシの木教室（支援教育）

ヤシの木教室担当 板垣 里沙

誰もが晴れやかな気持ちで迎える新たな年の幕開けです。一方振り返ってみると、昨年も多くの子供たちが事件に巻き込まれるニュースを多く耳にしました。大人も子供も安心して生活できる環境を整えていくことは、何より大切なことであると日々実感します。子供たちに最も身近な環境「学校」でできることの一つに“教育相談”が挙げられます。大人も子供も、一人で悩まずに誰かに気持ちを打ち明ける場として、教育相談・支援教育をお役立て下さい。

・スクールカウンセラーに相談するときは・・・

スクールカウンセラーの赤坂が担当致します。面談を希望される場合は、担任、本校副校長を通して事前に予約をしてください。

・児童への支援・指導の質を高めるために・・・

支援教育では、週ごとの子供たちの様子について、全教職員で共通理解する場を設けています。その他にも、生活指導朝会や職員会議、教育相談会議等を通して、全職員で支援できる体制を整えています。担任の先生はもちろんのこと、いつでもどの職員にでも気軽にご相談ください。

